

ピクテ マルチストラテジー リンクファンド(SMA専用)

追加型投信 / 内外 / 資産複合 / 特殊型(絶対収益追求型)

商品分類				属性区分				
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産(収益の源泉)	補足分類	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	特殊型
追加型投信	内外	資産複合	特殊型(絶対収益追求型)	その他資産(注)	年1回	グローバル(日本を含む)	ファミリーファンド	絶対収益追求型

(注)投資信託証券(債券 その他債券)

※商品分類及び属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

ESG分類

ESG投信ではありません

この目論見書により行うピクテ マルチストラテジー リンクファンド(SMA専用)の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第5条の規定により有価証券届出書を2024年1月10日に関東財務局長に提出しており、2024年1月11日にその届出の効力が生じております。

ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に受益者の意向を確認いたします。

ファンドの信託財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。

投資信託説明書(請求目論見書)については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。その際、投資者は自ら請求したことを記録しておいてください。

- 本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- 本書にはファンドの約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。

■委託会社(ファンドの運用の指図を行う者)

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第347号
設立年月日:1986年11月1日
資本金:20億円
運用する投資信託財産の合計純資産総額:14兆4,590億円
(資本金、運用純資産総額は2023年10月31日現在)

■受託会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)

三井住友信託銀行株式会社

■照会先

三井住友トラスト・アセットマネジメント

ホームページ: <https://www.smtam.jp/>

フリーダイヤル: 0120-668001

(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)



SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

✓ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

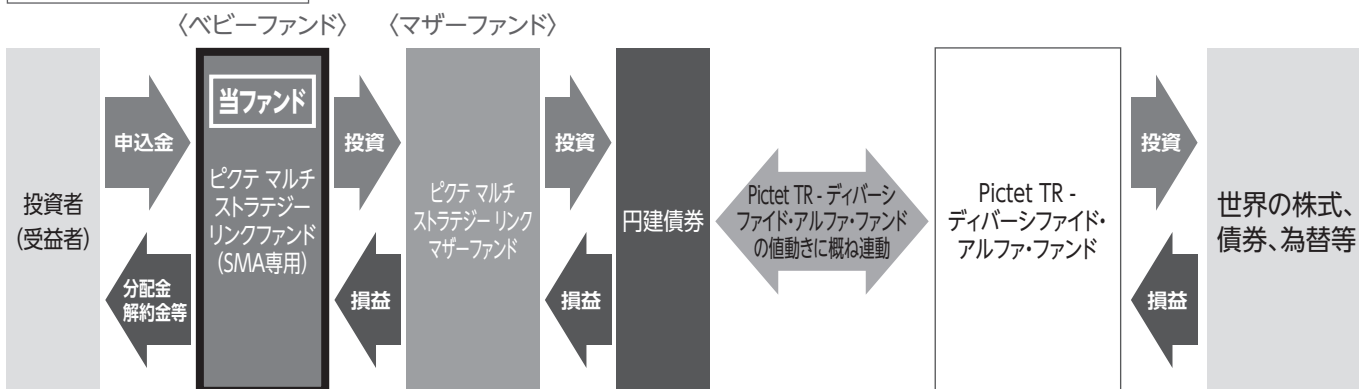
投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド(以下「マザーファンド」)への投資を通じて、主としてゴールドマン・サックス・インターナショナルによって設立された海外籍特別目的会社(以下「SPC」)の発行する円建債券(以下「円建債券」)に投資し、ピクテグループの運用会社が運用する外国投資信託証券「Pictet TR - Diversified Alpha」(以下「Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド」)の基準価額の値動きに概ね連動する投資成果を目指します。

●円建債券への実質投資割合は、原則として高位を維持します。

ファンドのしくみ



SPCとは

Special Purpose Companyの略で、資産の流動化や証券化など特定の資産を裏付けとした有価証券を発行するためだけに設立される法人(ペーパーカンパニー)のことです。



絶対収益追求型のファンドとは

特定の市場の動向に関わらず収益を追求することを目標として運用を行うファンドのことで、絶対に収益が得られるという意味ではありません。

Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用会社について

Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用はピクテグループの資産運用部門であるピクテ・アセット・マネジメントに属する以下の運用会社が行います。

ピクテ・アセット・マネジメントは、世界18都市に拠点を擁し、投資信託の設定・運用及び年金や機関投資家向け資産運用ビジネスを展開しています。(2023年10月末現在)

Pictet Asset Management S.A.: スイス、ジュネーブに拠点を置き、主に、スイス株式、テーマ型株式、グローバル及び地域債券、バランス型、株式及び債券の絶対リターン運用、クオンツ運用を行っています。

Pictet Asset Management Limited: 英国、ロンドンに拠点を置き、主に、先進国株式、新興国債券及び株式運用を行っています。

Pictet Asset Management (Singapore) Pte. Ltd.: シンガポールに拠点を置き、主に、新興国債券、アジア株式の絶対リターン運用を行っています。

Pictet Asset Management (Hong Kong) Limited: 香港に拠点を置き、主に、中国株式及び債券、中国株式の絶対リターン運用を行っています。

Pictet Asset Management (Japan) Ltd.: 日本に拠点を置き、主に、日本株式及び債券、日本株式の絶対リターン運用を行っています。

Pictet Asset Management (USA) Corp.: 米国に拠点を置き、主に、新興国債券及び社債の運用を行っています。

ファンドの特色

<Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドとは>

世界の株式、債券、為替等の多様な資産に対して、様々な投資手法を組み合わせることにより、中長期における収益の獲得を目指して運用を行う絶対収益追求型のルクセンブルグ籍投資信託証券です。

Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用戦略、主な投資対象及びその運用手法

	株式ロング・ショート 戦略	イベント・ドリブン 戦略	レラティブ・バリュー 戦略	グローバル・クレジット 戦略
主な 投資対象	株式、株式指数、 オプション等	株式等	金利/債券(ソブリン債、社債、債券 先物等)、通貨、オプション、CDS等	金利/債券(ソブリン債、社債、債券 先物等)、オプション、CDS等
運用手法	トップダウン及びボトムアッ プ分析に基づき、「割安な 株式」を買い、「割高な株 式」を空売りする運用戦略	企業の合併・買収、経営陣 の交代、業務提携、新商品 開発などの企業のイベント が発生することを予想して 収益源泉とする運用戦略	複数の投資対象間の「価格 差の縮小もしくは拡大」を 収益源泉とする運用戦略	金利変動に伴う影響を極 力中立化しながら、クレジ ット・スプレッドの相対価値取 引を収益源泉とする運用 戦略

※上記は運用戦略、主な投資対象及びその運用手法の例であり、必ずこれらに投資することを保証するものではありません。また、上記以外の運用戦略、投資対象に投資することがあります。運用戦略、投資対象は、今後追加又は変更になる可能性があります。

ポートフォリオ構築プロセス

マネジャー(ピクテ社内)のユニバース 約60戦略

マネジャー(ピクテ社内)のユニバース(約60戦略)から、定量的スクリーニングにより、戦略を絞り込みます。

組入れ候補の戦略群 約25戦略

組入れ候補の戦略群の中から、定性的判断を加味して、投資する戦略を決定し、戦略毎の相関等を考慮しつつ各マネジャーへの配分割合を決定し、ポートフォリオを構築します。

ポートフォリオ構築 約12~22戦略

※2023年10月末現在。上記プロセスは、今後変更となる場合があります。

円建債券について

- Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドを主たる裏付資産としてSPCが発行する円建担保付社債です。
- SPCは、ゴールドマン・サックス・インターナショナルによって設立された海外籍の会社です。
- 本債券の裏付資産は保管会社によって分別管理されており、仮に債券の発行体であるSPCが倒産した場合には担保受託会社が管財人としてその裏付資産を処分し、処分に関わる費用等を差し引いた後、本債券の保有者に返還されます。
- 本債券は格付を取得していません。

✓ ファンドの目的・特色

ファンドの特色

分配方針

- 原則として、毎年10月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益の分配を行います。
- 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

主な投資制限

- 外貨建資産への投資は行いません。

資金動向、市況動向、信託財産の規模等によっては、前記の運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様には帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。

市場リスク	<p>ファンドが実質的に投資する円建債券が概ね連動を目指す外国投資信託証券は、現物有価証券、デリバティブや為替予約取引等に投資しますので、国内外の経済情勢等の影響を受け、ファンドの基準価額は大きく変動します。</p>
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	<p>ヘッジファンドは、現物有価証券、デリバティブや為替予約取引等の買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドの純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、ファンドの基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。</p> <p>ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。</p>
ブローカーの信用リスク	<p>ヘッジファンドは、デリバティブや為替予約取引等を行う場合があります。ブローカーの債務不履行等によって、ブローカーで保管されている証拠金の一部又は相当の額が失われる可能性や契約が履行されない可能性があります。また、円建債券の価格は、取引に関わるブローカーの財務状況等及びそれらに関する外部評価等により変動し、あるいは債券取引が一部不可能となる等、概ね連動を目指す外国投資信託証券と大きく乖離することがあり、ファンドの基準価額の変動要因となります。</p>
円建債券の流動性に関するリスク	<p>円建債券の流動性は、取引に関わるブローカーの財務状況や信用力以外にも、市場や経済環境の悪化や混乱、また概ね連動を目指す外国投資信託証券における流動性の制約等から影響を受けます。かかる場合には円建債券の取引が制約され、ファンドの基準価額の下落やファンドの購入及び換金申込みの受付中止となる可能性があります。</p> <p>また、ファンドは実質的に特定の円建債券を組入れるため、取引に関わるブローカーは1社であり、取引にあたっては高いコストがかかる場合もあります。この理由等により、ファンドは概ね連動を目指す外国投資信託証券と大きく乖離する可能性があります。</p>
信用リスク	<p>有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。</p>

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

投資リスク

その他の留意点

- ファンドが実質的に投資する円建債券が概ね連動を目指す外国投資信託証券が存続しないこととなる場合、実質的に主要投資対象とする円建債券をSPCが発行しないこととなる場合、及び実質的に主要投資対象とする円建債券において規制当局の法令適用への判断に起因する事由を含め早期償還事由が生じ同様の性質を持つ円建債券が発行されない場合は、信託期間中であってもファンドは償還されます。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要性が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

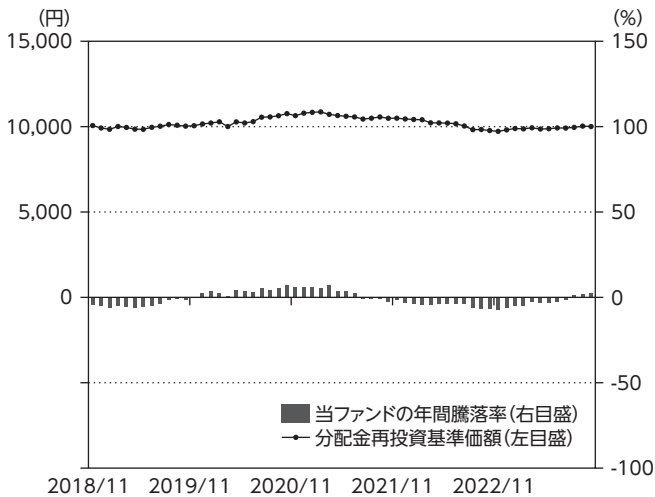
リスクの管理体制

委託会社におけるリスク管理体制

- 運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理（流動性リスク管理等を含む）と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用・リスク委員会等に報告します。

【参考情報】

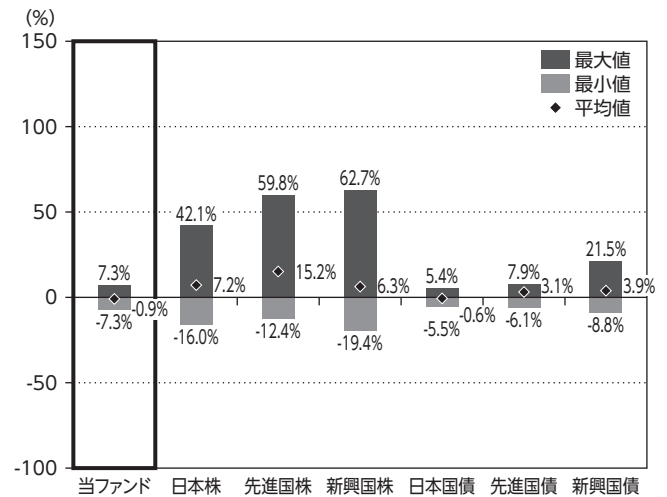
当ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*当ファンドの分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*2018年11月～2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。他の代表的な資産クラス全てが当ファンドの投資対象とは限りません。

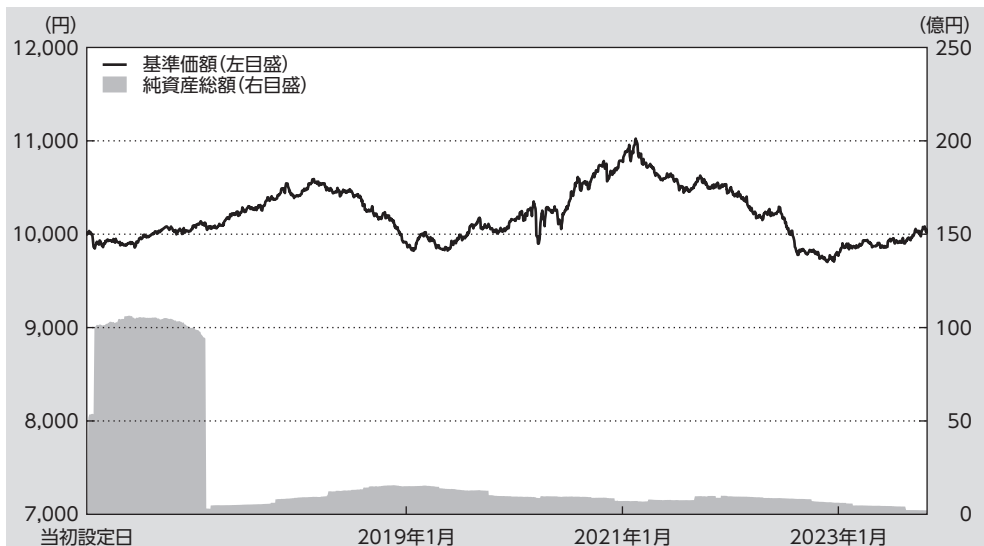
*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数について

日本株 TOPIX (東証株価指数) (配当込み)	TOPIX (東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。[配当込み]指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数の指数値及び同指数に係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
先進国株 MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
日本国債 NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPI国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募固定利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・デバチファイド (円ベース)	本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベース指数を使用しております。

基準価額・純資産の推移



基準価額	10,005円
純資産総額	2.06億円

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2019年10月	0円
2020年10月	0円
2021年10月	0円
2022年10月	0円
2023年10月	0円
設定来 分配金合計額	0円

※上記グラフは当初設定日から作成基準日までを表示しております。

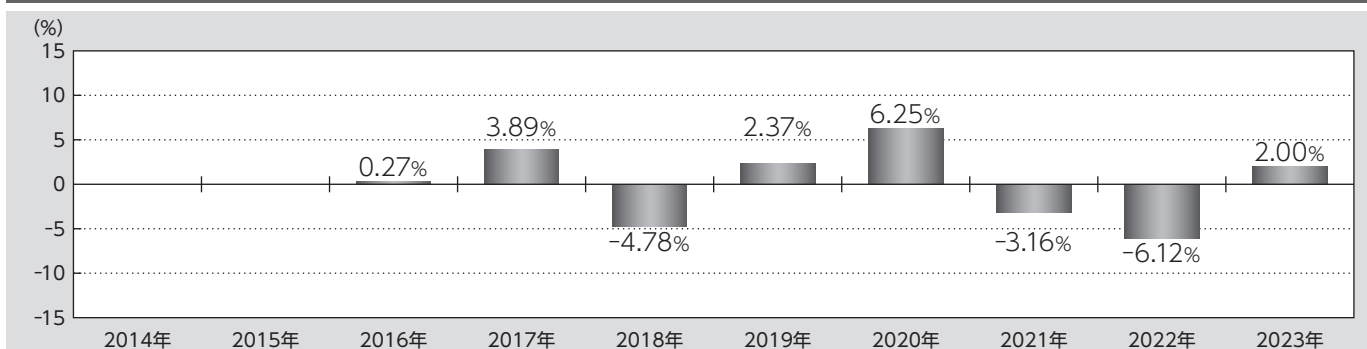
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

銘柄名	国/地域	種類	利率	償還期限	実質投資比率
SIGNUM GENEVA1 0% 12/15/25	ケイマン諸島	社債	0.0%	2025/12/15	100.3%

※実質投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移 (暦年ベース)



※2016年は当初設定日から年末までの収益率です。また、2023年は年初から作成基準日までの収益率です。

※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページ等でご確認いただけます。

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
購入の申込者の制限	販売会社と投資一任契約を締結されている投資者等に限るものとします。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。
購入の申込期間	2024年1月11日から2024年7月10日までとします。 ※上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
購入・換金 申込受付不可日	申込日当日又は申込日の翌営業日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。 ロンドン証券取引所の休業日 ロンドンの銀行休業日 ルクセンブルクの銀行休業日
換金制限	ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の 中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情がある時は、委託会社は購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの取消しを行うことがあります。
信託期間	原則として、2016年1月20日(設定日)から2025年10月10日までとします。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。 ●ファンドが実質的に投資する円建債券が概ね連動を目指す外国投資信託証券が存続しなくなる場合 ●実質的に主要投資対象とする円建債券をSPCが発行しないこととなる場合 ●実質的に主要投資対象とする円建債券において規制当局の法令適用への判断に起因する事由を含め早期償還事由が生じ、同様の性質を持つ円建債券が発行されない場合 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。 ●受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合 ●ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合 ●やむを得ない事情が発生した場合
決算日	毎年10月10日(休業日の場合は翌営業日)です。
収益分配	年1回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。 収益分配金の受取方法により、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託金の限度額	1,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎決算時及び償還時に交付運用報告書及び運用報告書(全体版)を作成し、交付運用報告書を販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用・税金

〈ファンドの費用〉

投資者が直接的に負担する費用			
購入時手数料	ありません。		
信託財産留保額	ありません。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対して 年率0.374%(税抜0.34%) 信託期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヶ月終了日及び毎計算期末又は信託終了のとき、信託財産から支払われます。		信託報酬＝運用期間中の基準価額× 信託報酬率
	運用管理費用の配分		
	支払先	内訳	主な役務
	委託会社	年率0.198%(税抜0.18%)	委託した資金の運用、基準価額の計算、 開示資料作成等の対価
	販売会社	年率0.143%(税抜0.13%)	運用報告書等各種書類の送付、口座 内でのファンドの管理、購入後の情報 提供等の対価
	受託会社	年率0.033%(税抜0.03%)	運用財産の管理、委託会社からの指図 の実行の対価
その他の費用・手数料	監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る 諸費用等をその都度(監査費用は日々)、ファンドが 負担します。これらの費用は、運用状況等により変動 するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示 すことができません。		監査費用は、監査法人に支払うファンド の監査に係る費用 有価証券の売買・保管に係る費用は、 有価証券の売買・保管にあたり、売買 仲介人・保管機関に支払う手数料 信託事務に係る諸費用は、投資信託 財産に関する租税、信託事務の処理 に要する諸費用及び受託会社の立替 えた立替金の利息等

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

(ご参考)

実質的に投資対象とする円建債券の価格に反映される費用等は、以下の通りです。

・円建債券は、円建債券の評価額に対して年率0.25%程度が発行・管理手数料等としてかかります。

・円建債券の連動対象となるPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドにおいては、運用報酬(Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの純資産総額に対して年率1.0%(*))、成功報酬、その他管理費用、監査費用等がかかります。

*但し、ファンドの裁量により1.0%を下回ることがあります。

これらの費用等は全て、今後、変更となる場合があります。

〈税金〉

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記税率は2023年10月31日現在のものです。

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

(参考情報) ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間におけるファンドの総経費率は以下の通りです。

総経費率(①+②)	運用管理費用の比率①	その他費用の比率②
0.41%	0.37%	0.04%

※対象期間は2022年10月12日～2023年10月10日です。

※対象期間中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した値(年率)です。

※実質的に投資対象とする円建債券の価格に反映される費用等は含まれていません。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

※詳細につきましては、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

 三井住友トラスト・アセットマネジメント